



令和5年(2023年)8月25日

企画展「関東大震災から100年 災害と井伊家伝来資料」 を開催します

このたび、彦根城博物館において、みだしの展覧会を開催いたしますのでお知らせします。

記

1 展覧会名称

企画展「関東大震災から100年 災害と井伊家伝来資料」

2 会 期

令和5年(2023年)9月1日(金)～10月4日(水) *会期中無休

開館時間：午前8時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

3 会 場

彦根城博物館 展示室 1

4 展示の趣旨

江戸時代、代々彦根藩主をつとめ、譜代大名筆頭として幕府の要職を担った井伊家は、その家格に相応しい数々の美術品と膨大な古文書を所蔵し、これらは江戸と国元の彦根とに分けて管理されていました。

明治時代になると、廃藩置県によって全ての藩が廃止となり、旧藩主は家禄と華族の身分を保障されて東京へ移住しました。井伊家は伯爵となり、江戸時代の屋敷地を手放して、東京の麹町区一番町こうじまち(現在の東京都千代田区三番町)に新たに本邸を構えました。本邸の敷地内には8棟の土蔵があり、江戸時代の藩邸から引き継いだものに加え、明治以降に彦根から運ばれた美術品や古文書なども数多く保管されていました。

大正12年(1923)9月1日、東京や神奈川を中心とした関東一円と中部地方の一部を、後に関東大震災と呼ばれる大地震が襲います。地震後に発生した火災によって被害は拡大し、東京では下町を中心に市街地の6割強の建物が崩壊あるいは焼失し、死者・行方不明者は9万人余りに達しました。

本邸も一帯の火災によって焼失し、土蔵に保管されていた美術品や古文書も、そのほ

とんどが灰燼^{かいじん}に帰してしまいました。この時、奇跡的に難を逃れたのは、2代直孝^{なおたか}が徳川家康より拝領した家宝「宮王肩衝茶入^{みやおうかたつきちやいれ}」、現在、国宝に指定されている「彦根屏風」、13代直弼^{なおすけ}に関係する一群の古文書のほか、記録から罹災を免れたことが確認される美術品約80件のみです。当館には、焼身となった刀剣や陶磁器といった、激しい火災に遭いながらも形として残った品々が収蔵されています。これらの使用や鑑賞が困難となった1000件を超える罹災品^{りさいひん}も、井伊家は処分することなく保管し続けてきました。

関東大震災以前にも、井伊家伝来資料は複数にわたって災害に見舞われています。嘉永3年(1850)2月5日の麴町大火では、江戸上屋敷が類焼し、保管する古文書や道具が失われる大きな被害を受けました。また、彦根城周辺の市街地も浸水した明治29年(1896)9月の琵琶湖大洪水では、井伊家屋敷である千松館^{せんしょうかん}の土蔵の1階が長期間にわたって水没し、水損した多数の古文書の中にはやむなく廃棄されたものもありました。この水害の際には、井伊家の家職^{かしょく}が、懸命に資料を救助したことが分かっています。

本展は、関東大震災から100年の節目を迎えるにあたり、井伊家伝来資料に関わる災害について取り上げるものです。被害の有り様を紹介するとともに、その中でいかにして井伊家伝来資料が守り伝えられてきたのかを改めて振り返ります。

5 展 示 作 品

別添リストの36件（参考資料1件を含む）

6 観 覧 料

一 般 500円(450円)

小・中学生 250円(170円) ()内は30名以上の団体割引料金

*常設展「“ほんもの”との出会い」も併せてご覧いただけます。

7 関 連 事 業

(1) 関連講演会「災害と井伊家伝来資料」

日時：令和5年(2023年)9月16日(土) 午後2時～ *90分程度

会場：彦根城博物館 講堂

定員：50名（当日先着順）

資料代：100円（彦根市内の小学生以下は無料）

講師：茨木恵美（当館学芸員）

(2) スライドトーク

日時：令和5年(2023年)9月2日(土) 午後2時～ *30分程度

会場：彦根城博物館 講堂

定員：50名（当日先着順）

講師：茨木恵美（当館学芸員）

問い合わせ先

彦根市教育委員会事務局

彦根城博物館 学芸史料課

担当：茨木恵美

（電話 0749-22-6100）

企画展「関東大震災から100年 災害と井伊家伝来資料」展示作品リスト

※◎は重要文化財

番号	名称	数量	時代	所蔵
嘉永3年2月5日 麹町大火—江戸上屋敷の類焼—				
◎ 1	井伊直弼書状 三浦十左衛門宛	1 状	江戸時代 嘉永3年(1850)2月11日	当館 (彦根藩井伊家文書)
◎ 2	井伊直弼書状 三浦十左衛門宛	1 状	江戸時代 嘉永3年(1850)3月13日	当館 (彦根藩井伊家文書)
パネル	江戸出火場所細見 嘉永三年二月五日	1 鋪	江戸時代 嘉永3年(1850)刊	東京大学大学院情報学環
明治29年9月 琵琶湖大洪水—千松館土蔵の浸水—				
パネル	明治二十九年大洪水浸水区域之図 (『琵琶湖治水沿革誌 附図』所収)	1 鋪	大正14年(1925)刊	滋賀県立図書館
3	写真「彦根城ヨリ浸水中ノ町内ヲ望ム」 (『琵琶湖治水沿革誌』所収)	1 枚	大正14年(1925)刊	彦根市立図書館
4	彦根水害地之図	1 鋪	明治29年(1896)刊か	個人 (平田町町代中村家文書)
パネル	千松館之図	1 鋪	明治33年(1900年)6月	当館 (井伊家伝来古文書)
パネル	千松館付近航空写真	1 枚	撮影：明治時代以降	当館 (井伊家伝来古文書)
5	堀部久勝書状 大久保章男・花木伝宛	1 通	明治29年(1896)9月20日	当館 (井伊家伝来古文書)
◎ 6	水損史料	5 冊	江戸時代	当館 (彦根藩井伊家文書)
大正12年9月1日 関東大震災—井伊家伝来資料を襲った未曾有の大災害—				
パネル	東京全図	1 鋪	大正9年(1920)刊	国際日本文化研究センター
パネル	写真「井伊家本邸の表門」 (『住宅建築写真集成 第一輯』所収)	1 枚	大正7年(1918)刊	国立国会図書館デジタルコレクション
7	井伊家本邸平面図 (井伊正弘『わが感懐を』所収)	1 枚	図面内容：大正8年(1919)以降	当館
彦根から東京へ 井伊家伝来資料の移動				
◎ 8	号付腰物帳	1 冊	明治4年(1871)	当館 (彦根藩井伊家文書)
9	能面記	1 冊	明治10年(1877)	当館 (井伊家伝来古文書)
10	茶用御掛物帳	1 冊	明治13年(1880)	当館 (井伊家伝来古文書)
本邸の火災と伝来資料の罹災				
パネル	大正十二年東京大震災火災地図	1 鋪	大正12年(1923) 刊	国際日本文化研究センター
◆ 関東大震災罹災品 刀剣				
11	罹災刀剣	6 口	平安時代～江戸時代	当館 (井伊家伝来資料)
12	刀 無銘 伝左 (名物 織田左文字) 【再刃】	1 口	南北朝時代	当館 (井伊家伝来資料)
◆ 関東大震災罹災品 湖東焼				
13	染付柳に小禽図水注	1 口	江戸時代後期	当館 (井伊家伝来資料)
14	金襴手芦雁図水指 鳴鳳作	1 合	江戸時代後期	当館 (井伊家伝来資料)
15	金襴手丸紋散らし盃台 鳴鳳作	1 基	江戸時代後期	当館 (井伊家伝来資料)
16	染付枝垂柳文水注 幸斎作	1 口	江戸時代後期	当館 (井伊家伝来資料)
17	染付山水図六角植木鉢残欠	2 箇	江戸時代後期	当館 (井伊家伝来資料)
18	青手古九谷写菊花文皿	3 枚	江戸時代後期	当館 (井伊家伝来資料)
参考	湖東焼 青手古九谷写菊蝶文皿	5枚の内 1枚	江戸時代後期	個人
◆ 関東大震災罹災品 茶道具				
19	霰文棗釜	1 口	江戸時代	当館 (井伊家伝来資料)
20	色絵丸紋茶碗 「仁清」 銘	1 口	江戸時代	当館 (井伊家伝来資料)
21	青磁花生	1 口	中国・明時代	当館 (井伊家伝来資料)
22	漣風炉 (井伊直弼好)	1 口	江戸時代後期	当館 (井伊家伝来資料)
23	楽焼香合 井伊直弼作	2 合	江戸時代後期	当館 (井伊家伝来資料)

◎

◆ 関東大震災罹災品 印章				
24	罹災印章	10箇	江戸時代	当館（井伊家伝来資料）
家宝と重要資料の救出				
25	宮王肩衝茶入 附割抜箱	1 口	中国・宋時代	当館（井伊家伝来資料）
26	彦根屏風（複製）	6曲1隻	原本：江戸時代前期	当館
27	秘書集録	10巻の内 9巻	江戸時代後期	当館（彦根藩井伊家文書）
罹災資料の調査				
28	東京本邸日記 大正13年～大正14年	1冊	大正13～14年(1924～25)	当館（井伊家伝来古文書）
29	関東大震災火災残存御家宝略目録	1冊	大正時代	当館（井伊家伝来古文書）
30	東京本邸日記 昭和4年～昭和6年	1冊	昭和4～6年(1929～31)	当館（井伊家伝来古文書）
31	刀剣押形 山越富三郎筆	1冊	昭和7年(1932)	当館（井伊家伝来古文書）
32	刀鐔押形 山越富三郎筆	1冊	昭和8年(1933)	当館（井伊家伝来古文書）
井伊家伝来資料を守り伝える				
33	千松館保管什器台帳	26冊	作成：大正時代初期	当館（井伊家伝来古文書）
34	井伊家美術保存会会則（案）	1冊	昭和28年(1953)頃	当館（井伊家伝来古文書）
35	井伊大老記念館ポスター	1枚	昭和28年(1953)頃	個人
パネル	井伊直愛・正弘写真	1枚	撮影：昭和30年(1953)4月	個人
パネル	井伊大老記念館写真	2枚	撮影：昭和32年(1957) 他	個人
パネル	井伊美術館写真	2枚	撮影：昭和35～61年(1959～86)	個人

写真解説

1 彦根水害地之図 1 鋪 (作品リストNO. 4)

縦 51.9cm 横 68.9cm

明治29年(1896) 刊か

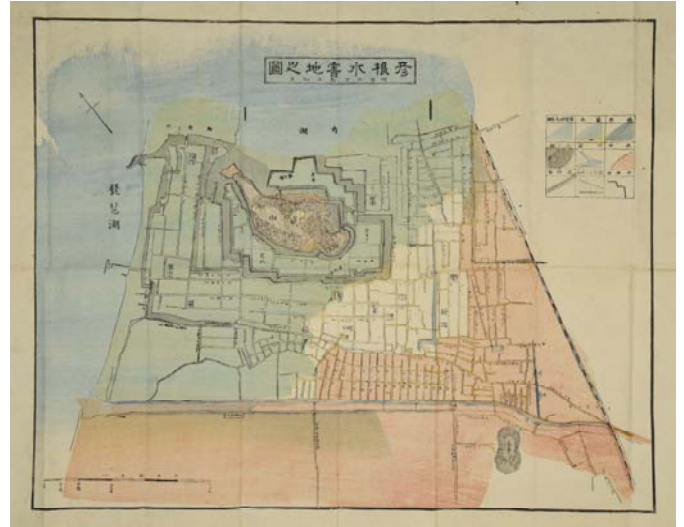
個人(平田町町代中村家文書)

明治29年(1896)9月に発生した琵琶湖大洪水における、彦根市街地の被害を表した地図。

過去、琵琶湖周辺で起こった水害の中で最も被害が大きかったとされるのが、琵琶湖大洪水です。この年は例年よりも雨が非常に多く、さらに9月に入って県内各地で豪雨が発生したことによって、琵琶湖の水位が3メートル以上上昇し、湖岸域全体が長期間にわたって冠水しました。多くの死傷者と家屋損壊、浸水被害が発生した未曾有の水害です。

彦根においても、湖の増水と^{せりがわ}芹川の堤防決壊などによって、湖岸の村々だけでなく市街地の大部分が床上浸水となり、人々は船で移動し、家屋の2階から出入りする状態となりました。本図は、この時の彦根市街地の被害を表しており、白抜きとなっている一部を除き、大部分が浸水を示す黄緑色と洪水を示す赤茶色となっています。

彦根の井伊家屋敷・^{せんしょうかん}千松館(現在の^{おはまごてん}御浜御殿)も浸水し、井伊家伝来の美術品や古文書などを多数保管する4棟の土蔵の1階も水に浸かりました。この時、井伊家の家職が、資料を浸水から守るためこれらを土蔵の1階から2階に移し、その後さらに全てを城山の櫓に移動させるという、懸命の救助活動を行ったことが分かっています。



2 罹災刀剣 6 口 (作品リストNO. 11)

最大長 95.0cm

平安時代～江戸時代

当館蔵(井伊家伝来資料)

関東大震災の発生当時、東京の井伊家本邸の8棟の土蔵には、数多くの美術品や古文書が保管されていましたが、これらのほとんどは、地震後に発生した火災によって灰燼に帰してしまいました。

激しい火災に遭っても燃え残り、震災後に回収されたもののひとつが

刀剣です。現在、当館には335件の罹災刀剣が収蔵されています。激しい火災により変形し、表面は荒れて所々黒化し、錆び付き、^{はばき}釰(刀剣に嵌める、^は鐔を固定する金具)が溶けたと思われる金属片が付着するものも多数あります。銘の判読は困難ですが、確認可能な範囲では、古刀期(平安時代中期～桃山時代)の銘を持つものが多く見られます。



3 関東大震災罹災品 湖東焼

①染付柳に小禽図水注 1口（作品リストNO.13）

高 13.9cm 口径 7.4cm

江戸時代後期

当館蔵（井伊家伝来資料）

②金欄手芦雁図水指 鳴鳳作 1口（作品リストNO.14）

高 15.0cm 口径 14.3cm

江戸時代後期

当館蔵（井伊家伝来資料）



①染付柳に小禽図水注

湖東焼は、江戸時代後期に彦根で焼かれたやきものです。井伊家12代直亮（1794～1850）、13代直弼（1815～1860）の時に、藩窯として多くの優れた作品が作られました。

土蔵の焼け跡から回収された罹災湖東焼126件は、変色し黒ずんでいるほか、①のように、崩れた土蔵のものとみられる土が溶着するなど、損傷する作例が多数を占めるものの、藩窯期の基準作といえる作品群です。その中には、藩窯期に活躍した湖東焼きの絵付師、鳴鳳の代表作として知られる②をはじめ、鳴鳳作品が数多く含まれています。また、湖東焼の特徴である、さまざまな素材、技法を用いた多彩な作品（磁器・陶器、青磁・白磁、染付・色絵・金彩など）がまとまって伝来している点も貴重で、今後の湖東焼研究に不可欠な一級資料に位置づけられます。



②金欄手芦雁図水指 鳴鳳作

4 秘書集録 10巻の内9巻（作品リストNO.27）

重要文化財

最大縦 28.1cm

江戸時代後期

当館蔵（彦根藩井伊家文書）

関東大震災の火災を免れた資料の一つが、井伊直弼に関係する一群の古文書です。これらは、歴史学者の中村勝麻呂と弟で井伊家家職の元麻呂とが、収納する革製の鞆ごと土蔵から運び出して庭に積み置き、水を染み込ませた絨毯で覆って保護したため、奇跡的に焼失を免れました。



この時に救助された古文書の一つにあたるのが「秘書集録」です。これは、直弼自筆の書状を中心とした古文書を卷子に仕立てた資料です。収録された古文書は、直弼に仕え、明治以降、井伊家の家職をつとめた大久保章男（小膳）が、廃棄の命に背き、直弼の汚名を濯ぐため、密かに自宅で保管したもの。明治19年（1866）3月の直弼の二十七回忌法要を機に井伊家に提出され、卷子に仕立てられました。「秘書集録」の名は、井伊家に提出された後に付けられたものです。

5 関東大震災火災残存御家宝 略 目録 1冊 (作品リストNO.29)

縦 28.8cm 横 20.4cm

大正時代

当館蔵 (井伊家伝来古文書)

関東大震災による罹災を免れた井伊家伝来の美術品、約80件を記した目録。正本と副本を一冊に綴じ込みます。

井伊家では、大震災の翌年、大正13年(1924)11月30日に、地震後の火災を免れた家宝の目録を編成したことが記録から分かっており、本目録がこれに該当すると考えられます。

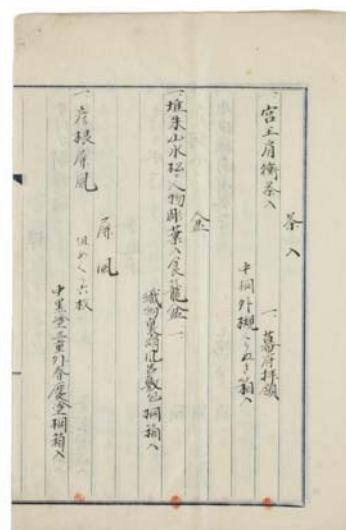
この目録の中には、現在、当館が所蔵する井伊家伝来資料が複数含まれています。以前より関東大震災から救出された資料として知られてきた井伊家の家宝「宮王肩衝茶入」^{みやおうかたつきちやいれ}、「彦根屏風」^{ひこねびょうぶ}のほか、2代直孝が将軍家から拝領した伝李龍眠筆「四季図」^{なるとか}や「我宿蒔絵硯箱」^{りりゅうみん}、彦根藩御用絵師の佐竹永海筆「群馬野遊図」^{さたけえいかい}、直弼自作の茶道具「黒漆塗栗山桶花生・水指」「多賀杓子菓子器」などが確認できます。

これらが罹災を免れた経緯は不明ですが、この目録によって、複数の資料が罹災を免れ、現在まで伝えられてきた事実を改めて確認することができます。



掛軸の部

伝李龍眠筆「四季図」、佐竹永海筆「群馬野遊図」等が記される。



「宮王肩衝茶入」と「彦根屏風」が記される頁。